

平成26年2月28日 実証実験結果報告会発表資料

| | | | | | |
|-------------|--|-----|--------------|------|---|
| 名称 | 富士ソフト株式会社 | | | | |
| 設立 | 1970年(昭和45年) | 資本金 | 262億28万円 | 従業員数 | 単体 5,308名 (連結 10,160名) |
| 代表者 | 坂下 智保 | TEL | 045-650-8811 | FAX | 045-650-8810 |
| 連絡担当 | パルロセンター TEL:045-285-0215 MAIL: palro-center@fsi.co.jp | | | | |
| 所在地 | 〒231-8008 神奈川県横浜市中区桜木町1-1 | | | | |
| 会社HP | http://www.fsi.co.jp/ | | | | |
| 事業概要 | <p>通信制御系、機械制御系、基本ソフト系等に関する受託ソフトウェア開発、各業種で使用する業務用アプリケーションの受託ソフトウェア開発、品質評価及び管理支援、コンサルティング、プロダクト開発販売、パーソナルコンピュータ関連機器の設計・製造・販売及びシステム保守・運用サービス等全般。本件では、神奈川県藤沢市のご協力のもと、市内複数の高齢者福祉施設において、当社のコミュニケーションパートナーロボット「PALRO(パルロ)」のプロトタイプを活用して、ロボットの有用性や効果を検証し、将来の高齢者施設への反映の可能性について、調査・研究を実施。</p> | | | | |
| 特徴・セールスポイント | <p>PALRO(パルロ)は、全高約40cm、重量約1.6kgのヒューマノイドロボットで、人の目を見て話す「コミュニケーション知能」、自律移動を実現する「移動知能」、顔と名前を覚える「学習知能」といった高度な知能技術を搭載しています。2012年6月から「高齢者福祉施設向けモデル」を販売し始め、すでに全国約80箇所以上の老人ホームやデイサービスなどの「高齢者福祉施設」でご利用いただいています。</p> | | | |  |

1. 実験の目的（ねらい）

2012年6月より販売を開始しているコミュニケーションパートナーロボットPALRO（パルロ）「高齢者福祉施設向けモデル」を藤沢市内の特別養護老人ホームやグループホームを中心とした23ヶ所の介護老人福祉施設にて試行運用を行い、介護ロボットの有用性について検証する。

本実験では、PALRO（パルロ）に新たな機能を搭載することで、運動機能やQOLの維持向上などに対する有用性の検証とともに、超高齢社会の進展における多様な取り組みのひとつとして介護予防や認知症高齢者との関わり、さらに介護職員の負担軽減や介護サービスの質の向上など、介護現場でのロボット活用の可能性を調査する。

また、PALRO（パルロ）の現場運用にて得た様々な実証事例によって、改良に向けた検証を行い、運用と製品開発の両面においてコミュニケーションロボットの有用性を高めることを目的とする。



2. 実証実験

(1) 実施概要

当社より2台のPALRO(パルロ)を貸与し、藤沢市内の23施設にて1施設あたり約2週間の試行検証を実施。1施設当り1台のPALRO(パルロ)を使用して、同時期に2施設にて実施。

検証の流れは以下の通り。

- 検証開始日
当社社員が対象施設を訪問し、施設職員に対して操作方法や運用方法のレクチャーを実施。
- 検証期間中(数回)
活用状況の確認をはじめ、高齢者の反応や利用する上での気づき等について定期的にヒヤリングし、都度、今後の方針の再確認を行った。
- 検証終了日
アンケート用紙にて施設の責任者や職員の方々にヒヤリングを行い、導入前と比べて変化があった事象やPALRO(パルロ)活用による効果、施設運営における課題などの確認を行った。

(2) 結果

PALRO(パルロ)に対しての印象は、総じて愛らしいなどの好感を得ることができた。

運動を促すダンスや頭の体操となるクイズなどレクリエーション活用については、高齢者や施設職員に好感触であったが、同時に様々な要望や運用上の課題も浮き彫りとなった。それらの対策として検証実施期間に随時、新機能を搭載するなどして更なる改善を図ったが、今回主な施設形態である入居型施設においては、個々人の生活パターンが異なるため、PALRO(パルロ)の適正な活用方法を見出す事が出来なかった。

本実証実験にて追加した主な機能は以下の通り。

- 電源コード引っ掛けによる落下事故対策
大容量バッテリーを新規に開発し、卓上で完結する運用を可能とすることでより利用しやすい環境を整えた。(現在販売に向けて準備中)。
- ダンスや体操コンテンツの時間延長のリクエスト
体操コンテンツとして首都大学東京の山田教授監修『荒川ばん座位体操』(20分)を搭載。レクリエーションコンテンツにて、ダンスを選択できる枠を追加した。
- 高齢者のお顔を憶える時間を短縮
PALRO(パルロ)を目の前に置くだけで10人まで続けて憶えることができる機能(「顔だけ憶えるモード」)を追加。



3. 今後について

特別養護老人ホームやグループホームなどの入居型施設は、個々人によって生活パターンが異なり、それが入居型施設における介護ロボットの普及促進を妨げているひとつの要因として捉えることが出来た。

コミュニケーションを促進するロボットであるPALRO(パルロ)を日常の生活に組み入れることによって、高齢者の規則正しい生活を形成するためのツールとして活用頂けるよう機能追加ならびに改良を進めていきます。

また、通所型施設における活用については、運動を促進する機能を高め、生活機能低下予防のツールとして、継続的にPALRO(パルロ)を介護現場にてご評価頂くことによって更に介護老人福祉施設における活用用途の幅を広げるべく取り組んで参ります。



高齢者の運動機能やQOLの維持向上を行うとともに 介護の現場における人材不足を解消していく

